

第3節 問題解決の実践

■ 自分自身の問題を、問題解決のプロセスを意識しながら解決しよう。

1 問題解決の実践

実習 問題を解決してみよう

これまで学んできた問題解決のためのさまざまな方法を活用し、あなた自身の問題を解決してみよう。

ぼくの問題は、サッカーの練習で勉強が疎かになりがちなことだ。宿題がやり切れないこともある。



ロジックツリーで原因を探ると、原因は勉強時間が少ないことではなく、テレビやメールなどをしながらだらだら勉強していることにあるようだ。



サッカー部の先輩にインタビューしてみたら、勉強時間はぼくと変わらなかったけど、宿題はきちんとやっているそうだ。

集中して勉強する方法について情報収集した。いろいろな方法があったが、効果と手軽さを考えて、「携帯電話の電源を切ること」と、「勉強する時間を決めて取りかかること」の二つを試みよう。



1 問題の発見

まずは身のまわりにある問題を探してみよう。問題を探すときには、「当然だ」、「それで仕方ない」となんとなく思っていることを、どうしてそうなのか疑問に思ったり、本当はよくならないかと思ったりすることが大切である。

問題を見つけたら、文章で記述してみよう。ほかの人にも読んでもらい、記述がわかりにくい部分などがいないか見てもらおう。記述のわかりにくい部分は、自分でも理解が不十分なところかもしれない。

2 原因の特定

問題を解決するにはその原因を見つけることが第一である。原因をはっきりさせないまま、その問題の解決をはかってもなかなかうまくいかない。たとえば、「自分が加入している部活動への入部希望者が少ない」という問題があったときに、「勧誘不足だ」と思い込み、勧誘を強化したとする。実際、入部希望者が少ない原因が勧誘不足だったときはよいが、とても厳しい部活だという印象をもたれていたことが原因であれば、強引な勧誘は逆効果である。

3 解決方法の決定

どんなによい解決方法を考えても、それを実行に移し最後までやり通さないと解決に至ることはできない。必要に応じて実行計画を立てよう。

4 実行

実行計画に基づいて問題解決を実行する。

5 実行後の評価

解決行動の結果も大切だが、問題発見から実行後までのプロセスを振り返ることが重要である。たとえ結果が思わしくなくても、問題解決のプロセスを評価し改善することで、次の問題解決に生かすことができる。

問題解決の成果の発信

誰かが公開している問題解決の過程を、貴重な情報源として利用したことはないだろうか。自分が実行した問題解決の過程も、結果にかかわらず、誰かにとって有益な情報となる可能性がある。自分以外の人に問題解決の過程の情報を利用してもらうには、情報を発信する必要がある。

情報を発信する際には、以下のことなどに気をつけよう。

○情報の信憑性

うそや人々を惑わすような情報を流すことがないように情報の信憑性について検討をしておこう。内容に間違いがないかの確認や、事実と意見の区別をすることなどにも気をつけよう。もし、後日誤りを認識した場合には、訂正を伝えよう。

○ユニバーサルデザイン・アクセシビリティ

より多くの人に利用しやすい情報となるよう配慮しよう。

○他者の権利（著作権・肖像権）の尊重

他人の著作物を使う場合や、人の姿や顔などを掲載する場合には、その人に承諾を得るようにしよう。

情報の公開の手段は、プレゼンテーション、Webページなどさまざまなものがある。公開する範囲や影響などを考えよう。

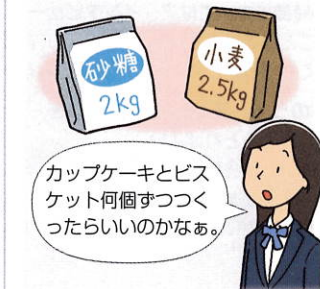
第5章から第7章では、次のような場面での問題解決を学んでいく。

処理の自動化が可能な問題



第5章へ

モデル化とシミュレーションが必要な問題



第6章へ

グループで解決する問題



第7章へ

実行前より宿題をやり切れないことは少なくなった。でも、苦手な教科の宿題が多い日などは、できないこともある。さらなる改善が必要だよ。



PDCAサイクル

計画、実行、評価、改善というプロセスを踏み、改善の後にさらなる計画へと結びつけるプロセスをPDCAサイクル(Plan-Do-Check-Action cycle)という。

